



KITASKA

キタスカだより

第5号 平成26年3月発行

北部地域住民自治協議会

北部市民サービスセンター内事務局

Tel 018 (846) 1133

ー「なして、キタスカ(KITASKA)だすか」ー

北部地域住民自治協議会
会長 加賀谷 俊雄

最近になって「キタスカ(KITASKA)」とは、なにを表しているのかと聞く人が少なくなった。それだけ「キタスカ」という言葉が理解されているかということ、そうでもないらしい。地域の方達は「センター」とは言うが、「キタスカ」とはあまり言わない。

言うまでもなく「キタスカ」は「秋田市北部市民サービスセンター」の愛称であるから「センター」で結構であるが、ふと淋しい気持ちになる。

私の知人が、県外から来た方に「キタスカ」の意味を問われ、即答できなくて困ったと言っていた。そこで、あえてこの愛称の由来を記しておきたい。

秋田市北部地区の頭文字、金足・上新城の〔K〕、飯島の〔I〕、土崎・寺内の〔T〕、外旭川・下新城・將軍野の〔S〕と秋田市の〔A〕を組み合わせたもので、秋田弁の出迎えの言葉「きたすか」をかけたものである。

ちなみに、この愛称の考案者は当時秋田市立港北小学校の生徒であったことを申し添えておきたい。この愛称の由来を多くの北部地区住民に再確認していただき、秋田市北部地区の拠点であるセンター「キタスカ(KITASKA)」のさらなる活用を願うこの頃である。

佐藤菊夫講演会



日時：平成25年11月17日(日)

午後1時30分～3時

演題：『我がふるさとへ捧げる想い』

第一部 講演

「故郷への思い・音楽への思い」

第二部 DVD鑑賞

講師：佐藤 菊夫氏

(東京管弦楽団音楽監督・指揮者)

〈主な作品〉

○土崎小学校賛歌

○秋田高校賛歌

○みなと曳き山車音頭(編曲)

○交声曲「たかのす賛歌」

○管弦楽による「日本民謡集」 他



およそ150名の方々が来場して行われた講演会は、第一部の講演から始まりました。

佐藤氏は昔を懐かしむかのように、音楽が好きな父の影響で自分も音楽を始めたということや、終戦前夜の土崎を襲った空襲で、街が壊滅的な被害にあったとき、心の平穏を保つことができたのは音楽のおかげであったという少年時代の話をされました。そして、これからもできるだけ長く音楽を続けていきたいと語られました。

第二部では、自身が指揮をとったコンサートのDVDを、佐藤氏の解説を交えながら上映しました。DVD越しでも伝わるオーケストラの演奏の迫力と、佐藤氏の指揮の鮮やかさに、会場からは大きな拍手が送られていました。





お弁当づくり大作戦



平成 25 年 5 月 31 日(金)から 3 回にわたって行われた『お弁当づくり大作戦』は、主婦の方を対象に「お弁当のおかずを作りながら、お料理の基礎も覚えることができる講座」をコンセプトとして開催されました。講師に料理研究家の京野香氏を迎え、19 名の受講者が参加しました。

1 回目は肉中心、2 回目は野菜中心、3 回目は魚介・乾物中心としたおかずを作り、お弁当だけではなく、食卓へ並べても子どもから大人まで喜ぶメニューとなりました。

また、応用として巻き寿司の作り方や、フルーツの飾り切りの仕方などを指導してもらったと、受講者のみなさんは悪戦苦闘しながらも、自分で作った巻き寿司やおしゃれな形のフルーツの出来栄えに大満足の様子でした。

平成 25 年 9 月 2 日(月)から 3 回にわたって行われた『初めての陶芸教室』は、陶芸初心者の方を対象に募集し 13 名の受講者が参加しました。講師は、キタスカで毎月第 1・第 3 月曜日にサークル活動をしている『陶遊会』のみなさんをお迎えしました。

参加者のみなさんは、思い思いに作品を作っていく、時折講師にアドバイスを受けながら作業を進めていきました。

また、本焼きが終わり完成した作品は、平成 25 年 9 月 27 日(金)から 9 月 30 日(日)まで行われた第 3 回キタスカまつりの展示コーナーに飾られたあと引き渡しとなり、自分の世界に一つしかない作品に、受講者のみなさんはとても大満足でした。

初めての陶芸教室



川口洋一郎の クラシック音楽入門講座



平成 25 年 10 月 28 日(月)から 6 回にわたって開催された『クラシック音楽入門講座』では、秋田県内の高校で音楽教師として教鞭をとられた後、合唱指揮など音楽の指導者として幅広く活躍されている川口洋一郎氏を講師に迎え、25 名の受講者が参加しました。

講座では、川口氏がクラシック音楽の歴史・曲が作られた当時の時代背景などを織り交ぜて作曲家のエピソードを語り、バッハやモーツァルト、ベートーヴェン等の偉大な作曲家たちの代表的な曲を鑑賞しました。受講者のみなさんは、クラシックの名曲の数々に耳を傾けておりました。

～北部8地区歴史探索～

シリーズ第4回 寺内地区



(復元された外郭東門と築地塀)

寺内地区町内会連絡協議会
会長 米田次男

— 史跡 秋田城跡の歴史 —

秋田城跡は、天平5年(733)に、秋田村高清水岡に遷置された当初の「出羽櫓」と呼ばれ、天平宝字年間(756～764)年頃に『秋田城』と呼ばれるようになりました。

位置は、秋田市役所から北西約2.5kmの地点にあり、雄物川河口右岸の高清水丘陵地に全域約90万平方メートルにわたる広大な史跡です。高清水の丘は古くから集落を形成し、旧寺内町の中心地として発展してきたところです。

奈良時代から平安時代にわたって東北地方の日本海側(出羽国)に置かれた大規模な地方官庁の遺跡で、古代出羽国の政治・軍事・文化の中心地でした。

古代最北の城柵とし津軽(青森)・渡嶋(北海道)のほか、大陸の渤海国との北方交易・交流の拠点として、重要な役割を果たしていたと考えられています。

天長7年(830)に出羽地方の大地震によって秋田城の官舎及び四天王寺が大被害を被むることはありましたが、しばらくの間は、比較的平穏な情勢が継続したものと考えられます。

しかし、元慶2年(878)蝦夷の人々による大規模な反乱があり、秋田城が襲撃されました。この反乱は「元慶の乱」と呼ばれており、秋田城は甚大な被害をうけたことが文献史料と発掘調査からわかっています。

その後の秋田城は復興し、10世紀の中頃まで機能していたと考えられています。平安時代後期以降から中世にかけ、その規模、実態や性格は不明ながら「秋田城」の名称と官職名として「秋田城介」が文献史料上認められ、古代に政治・軍事・文化の中心地であった古代秋田城の影響が後世に及んでいます。

昭和14年には遺跡の重要性が認められて約90万平方メートルが国の史跡に指定されました。

昭和34年から37年までの4年間は、国が直接発掘調査を行いました。そして、昭和47年からは秋田市教育委員会が本格的に発掘調査を開始し、現在も継続して行っています。

発掘調査によって明らかにされた竪穴式住居跡や掘立柱建物跡・井戸跡などは、平成元年度から計画的に復元整備され、歴史公園として市民の憩いの場として活用されています。

平成9年度には「外郭東門」と「築地塀」が実物大に復元されました。

平成21年度には「古代水洗厨舎跡」が復元されました。また、政庁城の整備は平成16年から実施し、「正殿・東脇殿・北東建物」の平面表示と「政庁東門・築地塀」の立体復元は、1200年の時を越えて「古」の歴史を語りかけています。

秋田城から出土した貴重な遺物を展示する仮称「秋田城跡歴史資料館」が、焼山地区の秋田城跡調査事務所に連結される形で建設され、平成28年4月に開館する予定です。このように様々なとりくみを行います。引き続き、地域の活性化をもたらす「秋田城跡史跡公園」づくりの整備促進に取り組んでいく必要があります。

写真提供：秋田城跡調査事務所



(政庁城の正殿・東脇殿・北東建物)



(復元された古代水洗厨舎)

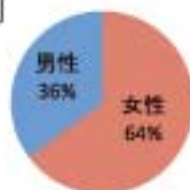


(秋田城跡外郭東門)

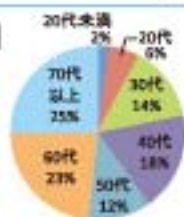
アンケート結果

平成26年2月実施 回答者数284名

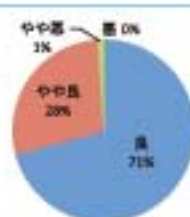
問1. 性別



問2. 年代別

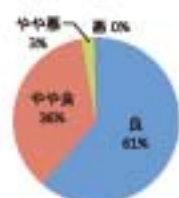


問3. キタスカの全体的印象



問4. 利用受付対応

〈1〉挨拶、身だしなみ



〈2〉利用に関する説明



〈3〉申請書の記載

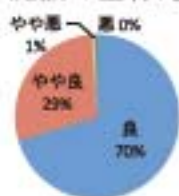


〈4〉応対

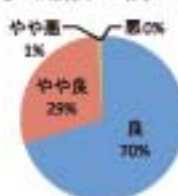


問5. 貸出施設について

〈1〉施設の全体的印象



〈2〉施設の使い勝手



〈3〉備品の使い勝手

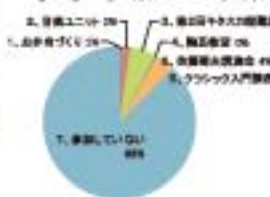


問6. 協議会自主事業について

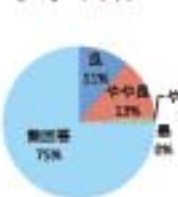
〈1〉知っていたか



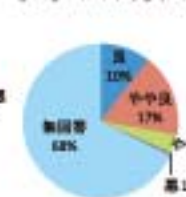
〈2〉参加した事業



〈3〉内容



〈4〉PR方法



問7. キタスカまつりについて

〈1〉知っていたか



〈2〉内容



～その他のご意見・要望～

- ・給湯室の温水器の使い方がわかりにくい。説明書等があればいい。
- ・キタスカまつりでの芸能発表のとき、会場の出入りが大変困難だった。
- ・楽しくサークル活動をさせてもらっている。... など

* 貴重なご意見・ご協力ありがとうございました。今後の運営の参考にさせていただきます。

★ サークル紹介 ★

秋田市民踊同好会 佐藤 美智子

私達、秋田市民踊同好会は、昭和41年1月に発足し、“会員相互の親睦と民謡、舞踊の指導”をモットーとし、県内でも歴史あるサークルです。

最盛期には、70人～100人位の会員でしたが、今では19人と少人数で、2年に1回の発表会に向け、年齢を忘れ楽しく元気に活動しております。

(例会日：毎月第2・4木曜日 9:00～12:00)

